

SSC 大泉主催

ドイツ研修 2019 報告書



協力:ライン・ノイス郡、ライン・ノイス郡スポーツ連盟

主催:コミュニティネットSSC大泉

も く じ

はじめに	1
ベッカーさんとの出会い	1
事前研修報告	2
研修概要	5
3月15日(金)	6
3月16日(土)	7
3月17日(日)	
ブンデスリーガ観戦	8
オペラ「フィデリオ」	11
3月18日(月)	
ライン・ノイス郡のスポーツ振興	13
ヤーン・カペレン体操クラブ	16
オルケン体操クラブ	17
3月19日(火)	
ノイス水泳クラブ	20
ギーラート・ロートヴァイス共同スポーツクラブ	22
3月20日(水)	
SGカールストスポーツ共同体	25
TUSグレーベンブロイヒ体操クラブ	28
3月21日(木)	
TSVバイヤー・ドルマーゲン体操クラブ	31
3月22日(金)	35
視察クラブMAP	36

はじめに

茨田 忍(団長)

「ドイツ研修 2019」の目的は「生涯スポーツ先進国ドイツを訪ね、総合型地域スポーツクラブのモデルとなった地域を基盤としたスポーツクラブを視察するため」に行われました。

視察研修実施にあたり順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科教授 黒須充先生とコーディネーターを努めて頂いたライン・ノイス郡スポーツ課長 Axel Becker 氏が密に連絡を取り、参加者の希望を織り込んだスケジュールを組んで下さいました。

この内容に則りライン・ノイス郡スポーツ連盟の協力を得て研修団14名で視察に伺うことが出来ました。

研修を振り返るとき、150年の歴史を持つライン・ノイス郡スポーツクラブはドイツの固有な事情に応じて総合型地域スポーツ活動が発展してきましたが、歴史的に早期に課題に直面し、いち早く行政と住民とが協働で取り組み実践されてきた経緯は今もなお、それぞれの地域クラブの中で生き生きと実施されておりました。

短い期間でしたが、私たちが抱えてるクラブの課題解決に向けてのヒント、その政策に繋がる考え方やスポーツ事情など、真摯に向き合わねばならないテーマが多くありました。

ドイツの先進的な事情を参考としながらも、社会福祉とスポーツ、医療が連携した新たな地域活動づくりに向けて、チャレンジできたらと願います。

結びに、今回ドイツ視察研修を実施するにあたりご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げ挨拶とさせていただきます。

ベッカーさんとの出会い

黒須 充(順天堂大学)

今回の研修では、航空券やホテルの手配をはじめ、研修先とのプログラムの打ち合わせや日程調整など、企画およびツアーガイドとしての役目を兼務していたため、団員全員が日本を出発し、無事成田に戻ってくることを最優先に行動した。個々の研修の内容については、団員がまとめてくれた報告書に譲り、ここではドイツ研修を陰になり日向になり支えてくれたベッカーさんとの出会いについて簡単に触れてみたい。

ベッカーさんと初めて会ったのはいつ頃だろう？

私が初めてドイツを訪れたのは、1995年36歳の時であった。長崎大学から福島大学に移り、ちょうど5年ほど過ぎた頃、仕事(研究)に行き詰まりを感じていた。外から日本のスポーツを見てみたいと思い、大学を1年間休職し、ケルン体育大学スポーツ社会学研究所の門をたたいた。おそらく、その時にリットナー教授から、研究室を訪ねてきたベッカーさんを紹介されたのが最初だったように記憶している。

最近では二人とも敢えてこの話題(何年前に会ったか)に触れないようにしている。なぜなら、正確な数字がわかると、「お互い年をとったなー」という会話になるのがオチだから。

当時、二人とも(ベッカーさんは私より3つ年上)30代後半であったことは確かであるが、今ではお互い髪にも白いものが目立つようになり、随分と歳月が経過し、歳をとってしまったなーと言葉ではなく、目で合図するようになっている。

しかし、当時から印象的だった彼のアゴ鬚は今も変わらずベッカーさんのトレードマークである。ドイツ人男性らしい彼のおしゃれなこだわりなのである。

アクセル・ベッカー氏は、1955年ベルリン生まれ。ケルン体育大学卒業後、ライン・ノイス郡スポーツ相談

■研修の目的：

生涯スポーツ先進国ドイツを訪ね、総合型地域スポーツクラブのモデルとなった地域を基盤としたスポーツクラブを視察する。

■場所：

ドイツ連邦共和国（首都ベルリン、面積 357,386k m²、人口 8,274 万人）

ノルトライン・ヴェストファーレン州（州都デュッセルドルフ、面積 34,113k m²、人口 1,791 万人（16 連邦州のうち最多）、国内総生産の 4 分の 1 を生産する経済力、州内に 49 大学）

ライン・ノイス郡（人口 44 万人、8 つの市町からなる）

■参加者：

教授	黒須 充	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科
団長	茨田 忍	NPO 法人コミュニティネット SSC 大泉（SSC 大泉） 理事長
総務	入江 能子	クラブ 1 2 3（ワンツースリー）荻窪 会長・クラブマネジャー
団員	斎藤 尚美	杉並区教育委員会 社会教育主事
団員	秋間 聖子	クラブ 1 2 3（ワンツースリー）荻窪
団員	末廣 淑子	クラブ 1 2 3（ワンツースリー）荻窪
団員	南波 浩子	NPO 法人スポーツコミュニティ桜（SSC 桜台） 理事長
団員	原 純子	NPO 法人総合型地域スポーツクラブ平和台（SSC 平和台） 理事長
団員	大熊 篤	NPO 法人光が丘総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ（SSC 光が丘） クラブマネジャー
団員	飯村 清美	NPO 法人コミュニティネット SSC 大泉（SSC 大泉） 会計
団員	高橋 利博	エスペランサ可茂スポーツクラブ 理事長
団員	大場 弘樹	NPO 法人スポーツアカデミー
団員	加瀬 聖武	NPO 法人スポーツアカデミー 青少年会員
団員	小田 美幸	順天堂大学大学院博士前期課程 1 年
通訳	多田 茂	ドイツ連盟共和国公認通訳翻訳者
コーディネーター	Axel Becker（アクセル・ベッカー）	ライン・ノイス郡スポーツ課

■宿泊：

ホテルゾンダーフェルト Hotel Sonderfeld

■視察クラブ：

ヤーン・カペレン体操 06 クラブ<グレーベンブロイヒ市>

オルケン体操クラブ<グレーベンブロイヒ市>

ノイス水泳クラブ<ノイス市>

ロートヴァイス・ギーラートクラブ<ユッヘン市>

SGカールストスポーツクラブ<ノイス市>

TUSグレーベンブロイヒ体操クラブ<グレーベンブロイヒ市>

TSVバイヤードルマーゲン体操クラブ<ドルマーゲン市>

■行程：

3月15日（金）



成田空港 10:00 集合 12:30 発 スカンジナビア航空 SK984



コペンハーゲン国際空港 16:05 着 16:55 発 スカンジナビア航空 SK627



デュッセルドルフ国際空港 18:10 着（時差－8時間）



デュッセルドルフ駅～ケルン中央駅～グレーヴェンブロイヒ駅～ホテルゾンダーフェルト

3月16日（土）



ベートーベンハウス<ボン>（閉館中）



アウグストゥスブルク城<ブリュール>



ケルン大聖堂、市内観光<ケルン>

3月17日（日）



ブンデスリーガ観戦 バイヤー04 レバークーゼン VS SV ヴェルダー・ブレーメン<レバークーゼン>



オペラ鑑賞 オペラ「フィデリオ」<ケルン>

3月18日（月）



スポーツの家 講義「ライン・ノイス郡のスポーツ振興」<グレーヴェンブロイヒ市>



ヤーン・カペレン体操クラブ<グレーヴェンブロイヒ市>



オルケン体操クラブ<グレーヴェンブロイヒ市>

3月19日（火）



ノイス水泳クラブ<ノイス市>



ロートヴァイス・クラブ<ユッヘン市>

3月20日（水）



SGカールスト<ノイス市>



TUSグレーヴェンブロイヒ<グレーヴェンブロイヒ市>

3月21日（木）



TSVバイヤードルマーゲン<ドルマーゲン市>



市内観光<ケルン>



お別れパーティ（日本食店・桃太郎）

3月22日（金）



ホテルゾンダーフェルト～グレーヴェンブロイヒ駅～ケルン中央駅～デュッセルドルフ駅



デュッセルドルフ国際空港 13:30 発 スカンジナビア航空 SK626



コペンハーゲン国際空港 14:50 着 15:45 発 スカンジナビア航空 SK983



（機内泊）

3月23日（土）



成田空港 10:40 着・解散

3月15日(金)

- 10:00 集合 成田空港第1ターミナル南ウイング4階出発ロビーEカウンター前
- 12:30 成田空港発 スカンジナビア空港 SK984 便
- 16:05 コペンハーゲン国際空港着
- 16:55 コペンハーゲン国際空港発 スカンジナビア空港 SK627 便
- 18:10 デュッセルドルフ国際空港着(飛行時間 13 時間 40 分)
ベッカー氏出迎え
電車移動 デュッセルドルフ空港駅～デュッセルドルフ中央駅(夕食購入)
～ノイス中央駅～グレーベンプロイヒ駅～ホテルゾンダーフェルト Hotel Sonderfeld

黒須先生、茨田団長、入江さん、南波さん、原さん、飯村さん、秋間さん、末廣さん、小田さん、斎藤の 10 人が成田を出発(多田さんは別便で現地に向かい、翌朝合流)。コペンハーゲン国際空港にほぼ予定通りに到着し、空港内を早歩きで移動して、デュッセルドルフ行に乗り換える。デュッセルドルフに到着して預けた荷物が出てくるのを待ったが、4人分の荷物が出てこないまま、ターンテーブルがストップ。茨田さん、入江さん、原さん、南波さんのスーツケースが空港に届いていないことが判明！ロストバゲージ！

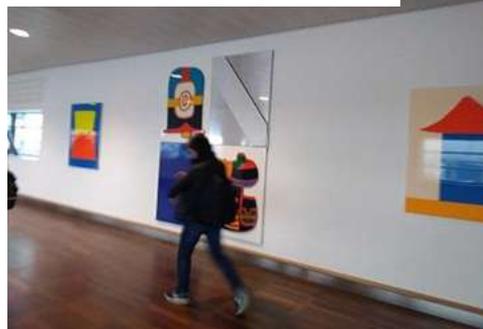
先に到着していた大熊さんとは合流できたものの、もう一人、合流する予定の高橋さんの乗った飛行機が2時間遅れ。ようやく合流して、出迎えてくださったアクセル・ベッカーさんと空港駅を 21 時過ぎに出発。途中、ケルン中央駅の構内で思い思いの夕食を購入し、さらに電車に乗り、グレーベンプロイヒ駅で下車。駅舎の向かい側がこの研修旅行の拠点となるホテルゾンダーフェルト。23 時 30 分にチェックイン。



成田空港



コペンハーゲンでトランジット



ケルン中央駅



3月16日(土)

- 10:00 ホテルフロント集合
電車移動 グレーベンプロイヒ駅～ケルン中央駅～ボン駅
ベートーヴェンハウス(閉館中)、昼食(広場の屋台など)
電車移動 ボン駅～ブリュール駅
アウグストゥスブルク城
- 16:15 電車移動 ブリュール駅～ボン駅～ケルン中央駅
ケルン大聖堂、自由行動
- 18:00 夕食
電車移動 地下鉄ドーム駅～ケルン中央駅～グレーベンプロイヒ駅～ホテル
- 22:00 クラブへのお土産袋詰め、解散

ホテルの素敵な朝食を堪能し、電車でボン駅へ。目的のベートーヴェンハウスは残念ながら閉館中。近くの広場の屋台で昼食(ボリュームに驚き!)の後、ボン駅からブリュール駅へ、再び電車に乗る。

アウグストゥスブルク城は 18 世紀にケルン大司教クレメンス・アウグストが建立したロココ調の美しい城で、1984 年にユネスコ世界文化遺産に登録され、1994 年まで迎賓館として使用されていた。

ケルンへ戻り、大聖堂の見学やショッピングなどを楽しむ。今日は土曜日のためか、街中はどこも混んでおり、ようやく魚介レストラン NORDSEE で夕食、またまたボリュームのすごさに驚く。

ホテルに帰ると、茨田さんたちの荷物が無事に届いており、一安心。よかった～。



ケルン中央駅



ケルン大聖堂



1 日乗り放題切符。
上の写真のオレンジ色の器械
で印字すると有効になる。



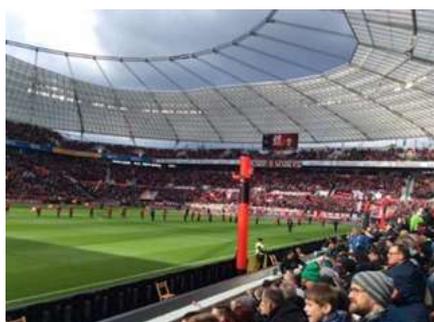
アウグストゥスブルク城

今回、ブンデスリーガ初観戦。試合前のボランティアによるオープニングセレモニーから始まる。地元レバークーゼンのスタジアムで、ホームゲーム開催。相手チームはアウェイのブレーメンでサポーターが鉄道で応援に向かうところにも出くわす。この熱狂は、うらやましい限り。

さて、試合はレバークーゼン vs ブレーメン1:3でアウェイのブレーメンが勝利。前半0:2、後半1:1。アウェイのブレーメンは、4~5バックとディフェンシブなフォーメーションで、ボールを奪ってのフォワード 3 人くらいでのカウンター攻撃で前半2点先取。前半はレバークーゼンのボール回しも上手いかず、ブレーメンがボール支配。後半はリードされているホームのレバークーゼンがスタート時にゴール意識も上がって、10番・9番が前半の左サイドから右サイドへのポジション変更も功を奏し、ゴール前での反則を誘うことでフリーキックのチャンス。このチャンスを生かして、レバークーゼンの9番が直接フリーキックでゴール！1点を返す。が後半の終了間際、ロスタイム5分残り1分でブレーメン10番に左足キックフェイント後に右足でキック、キーパー越しにゴールし、後半1点追加。冷静なナイスゴールでホイッスル。アウェイのブレーメンは勝ち点3を獲得、ホームのレバークーゼンは勝ち点0と残念な結果でしたが、熱狂的なサポーターとプレイヤーが一体化した試合は、本場ドイツならではのでした。

また、試合とは別に、みんなでホームのレバークーゼンの応援マフラーを買ったり、昼食の-snackを食べたことはいい思い出。ちなみに、snackの購入はカード購入制で、10ユーロでカード一時購入、現金購入は不可で、入り口に payment あり。カード戻すと預り金10ユーロ返金あり。

(記録:大熊)



久しぶりにブンデスリーガの試合を観戦した。

◆テクニカル的に

ホームのレバークーゼンが完敗のゲーム。サポーターは静かに帰ったが、まったく不甲斐ないゲーム。中心選手と思われる 9 番?の選手にボールを集めすぎで前後半を通じて、左サイドからの攻めに終始した。右サイドの攻めがあればゲームに変化をもたらすことができたのではないか(後半は 9 番の選手が右サイドから中にポジショニングした)。ゲームの目的は、ゴールをとることである。だったら、前半開始早々に見せたワンツーをもっと使うべきであった。ペナルティーエリア近くでは、2 対 1 の状況を作ることが、教科書的に言われる。なぜなら数的優位になりシュートがフリーでできる状態にもっていけるからだ。攻めていながら、ゴールが奪えないのは、攻めの変化(例えばゆっくりした攻めからギアチェンジしはやくせめる、長いパスと短いパスを組み合わせる、サイドを変えて守りの薄い再度から攻めるなど他にも)を作れなかった所で相手のカウンターで敗れた。

◆スタジアム・サポーター

レバークーゼンのホームゲームは、2001 年に見たが、キャパが 27,000 人程度で何かショーを見ているような素晴らしいスタジアムだったことを記憶している。ワールドカップで 40,000 人規模のスタジアムに変更になったが、前のスタジアムが素晴らしかった。ソーセージも業者さんが販売し、美味しかった。メンヘングランドバッハや、デュイスブルグ(2 部)でもゲームをみた。メンヘングランドバッハは、熱狂的なサポーターが多かったのに比べるとレバークーゼンはおとなしい印象だ。薬品のバイエルというメーカーがスポンサーだからだろう。メンヘングランドバッハは、町も小さいため、小さな商店など小規模なスポンサーが多い。

ブンデスリーガは、ピラミッド構造になっており、8 部くらいまであり、訪問したTUSクラブは、7 部に位置している。そのリーグで活躍すれば、直ぐに上からスカウトにくる。惰mana場合は、下のリーグで再度活躍すれば戻ってこられるというシステムであり、再チャレンジできる。日本はJでだめならJFLとかで選手でやれるが、再浮上は難しい。

◆一人の人間としてのアスリートの育成と在り方

バイエルンにいたミュラーは、勉強しなくてドイツ国民の批判が多かった。人間としての資質を磨き一人の大人として品格のある行動が求められるのがドイツのサッカー人に求められる。サッカーは、やはり欧州ではビジネスである。世界中どこでも 18 歳でプロを目指すスポーツで、11 歳頃からアフリカ、アジアなど世界中からブンデスリーガと言わずとも欧州の資金力のあるチームは子どもたちを集め育成する。しかしこれが批判の対象にもなっている事も事実である。

(記録:高橋)



オペラ「フィデリオ」 ～ベートーヴェン作曲の唯一のオペラ～

サッカー観戦終了後、すぐに席を立ち移動を開始。荷物を引取りみんなで急ぐが、帰りの電車のホームにたどりつくまでに 30 分はかかった。駅までの帰り道リムジンバス待ちの観客が大勢並んでいた。次の電車が定時に到着するか気にしながらホームで待つ。さらに駅のホームは観客であふれていて全員電車に乗れるかさらに心配してしまう。到着した電車に無事全員乗車でき、レバークーゼン Mitte 駅ーケルン中央駅に移動したが、上演するケルンの劇場が改修工事中で、仮の会場での上演の為、ケルン中央駅より 1 駅隣の駅に移動し、そこから劇場まで 10～15 分くらい歩く。ケルン中央駅で既に時間ギリギリとなっていたので夕食を食べずに劇場に向かうが、到着したのは開演 10 分前で急ぎ荷物を預け着席する。直ぐに暗くなり上演開始となった。

旅行直前にベートーヴェンの勉強会を行い、あらずじは理解していた。オペラの配役や内容は以下の通り。

原作ジャン・ニコライ・ブイイ「レオノーレ、または夫婦の愛」 台本ヨーゼフ・ゾンライトナー

<登場人物>

レオノーレ=フィデリオ	フロレスタンの妻	ソプラノ
フロレスタン	無実の罪で幽閉されている囚人	テノール
ロツコ	牢番、ピツァロの部下	バス
マルツェリーネ	ロツコの娘	ソプラノ
ヤッキーノ	ロツコの部下、門番	テノール
ピツァロ	刑務所長	バリトン
フェルナンド	大臣でフロレスタンの友人	バス
囚人たち、兵隊たち、町民たち		

<第 1 幕>

スペインのセビリア近くの刑務所の中庭にて。門番ヤッキーノは、看守ロツコの娘マルツェリーネが最近冷たいと気にしている。彼女は監獄で働き始めたフィデリオ(実は男装したレオノーレ)が気になっていた。フィデリオを気に入ったロツコと他の三人とで四重唱が歌われ、フィデリオはロツコに「地下牢で働かせてほしい」と訴える。刑務所長ドン・ピツァロが現れ、手紙の中に密書を見つける。彼はそれを読んで大臣が視察に来ると知り、政敵フロレスタンの幽閉が露見すると身の破滅だと歌い、フロレスタン殺害を決意する。夫フロレスタンを助けるべく獄中に入り込んだレオノーレは、ピツァロに視線を向け、大アリア(悪者よ!どこに急ぐのか)を歌う。囚人たちが中庭に出てきて、久しぶりの陽光に喜ぶ。ピツァロは、ロツコが許可なく囚人を外に出したことを咎め、急いで墓を掘るよう命じる。

<第 2 幕>

フロレスタンの繋がれている地下牢にロツコとレオノーレが来て、墓を掘り始める。レオノーレは囚人を一瞥し夫と確かめ、囚人にワインとパンを与える。彼は妻だと気付かぬまま感謝する。ピツァロが現れフロレスタンを殺そうとする瞬間、レオノーレが立ちふさがり「彼の妻から殺せ!」と叫ぶ。そのとき大臣到着を告げるラッパが聞こえ、ピツァロは戻らざるを得なくなる。大臣の前でフロレスタンは解放され、妻と抱きあう。ピツァロは逮捕され、歓喜のうち幕となる。

幕間の休憩時間には、皆それぞれに飲み物を楽しみました。南波、茨田、飯村の 3 名は値段がわからずに並んでいましたが、前の方がスパークリングワインに 20 ユーロ札を出して 10 ユーロ札のお釣りを受け取っていると分かり、同じものを注文して 10 ユーロ札で支払いお釣りを受取りました。そしてまた開演ベルで急いで席に戻り第 2 幕の開始です。

終演後は、電車の時間もあり駅へ急ぎました。この日の夕食は、帰りのケルン中央駅にて待ち時間の間に多田さんと南波さん 2 名の買い出しによるサンドイッチとなりました。各自電車の中またはホテルについてからいただきました。グレーブンプロイヒ駅着 21:55、ホテル着 22:00

オペラの感想を一人ずつお聞きしたら

・始まるまで何語でやるのかなと思っていたがやはりドイツ語だった

- ・オペラだから仕方がないのかもしれないが囚人がとてもふくよかな男性だった。もう少し配役に考慮がほしかった
- ・面白かった
- ・見られてよかった

などでした。

前日には、ボンにあるベートーヴェンハウスも観光をしましたので写真を添付しています。実際には、お休みだったので中に入れず外から写真を撮るだけでした。残念でした。

(記録:飯村)



当日のチケットです。20列目の中央のあたりに15人並んで座りました。開演直前だったのでチケットの番号(24)ではなく到着順に着席しました。



3月18日(月)

- 9:00 ホテルフロント集合
徒歩移動 Haus des Sports(スポーツの家):アクセル・ベッカーさんの職場
- 9:25 講義「ライン・ノイス郡のスポーツ振興」
講師:ライン・ノイス郡スポーツ課長 アクセル・ベッカー氏
車移動 ノイキルヒェン
- 12:50 昼食をとりながら懇談
徒歩移動 ヤーン・カペレン体操クラブ TV Jahn 06 Kapellen
車移動 グレーヴェンプロイヒを散策
- 18:15 徒歩移動 オルケン体操クラブ Turnverein Orken 夕食
徒歩移動 ホテル

「ライン・ノイス郡のスポーツ振興」

講師:アクセル・ベッカー氏(ライン・ノイス郡スポーツ課長)

アクセル・ベッカー氏(63歳)は、スポーツの家で30年働いている。ノイス郡の中のクラブ事情について詳しい。年金生活もできるが、仕事が続けられる為、継続している。スポーツ=社会の一部、社会の発展=スポーツの発展、社会の動き枠組み、経済の動き枠組みを理解する必要がある。

スポーツシステムだけでなく、社会の状況枠組みについても質問してください。思ったことをどんどん質問してほしい。日本人の奥ゆかしさを出さず、質問してほしい(その方が喜ばれる)。パワーポイントだけでなく外に出て見てほしい。

ライン・ノイス郡の特徴は、大きな都市が囲んでいる、人口が集中している(ドイツには、五つの郡があるがノイス郡だけで45万人)、経済的に成果を上げていることであり、人口、経済がスポーツ活動のサポートの前提となっている。

ドイツのスポーツシステムを家に例えてあらわす。組織は、歴史的発展の中で考える。ベースは国民全体であり、ドイツ全体の人口は8千万である。

年齢の変遷を見ると、高齢化しており、スポーツにも影響が出ている。若い人のスポーツから高齢者のスポーツへ変化しており、日本と同様である。

ドイツ憲法に、「ドイツ人であれば、クラブおよびグループを形成する権利を持っている。」と記載している。クラブの歴史を、百年前の体操クラブの写真から見ると、男性だけであり、規律正しい定められた姿勢から、当時のクラブの在り方が分かる。最近は女性が多く、男性が少ない。百年で様変わりしている。

ノイス郡のスポーツクラブデータ。人口は45万人、クラブ数は347、会員数は11万人(24%)、14才までの会員は3万4千人(64%)、14才以下は9千人(50%)である。子供の2人に1人が会員。

97年以降のクラブ数の変化をしてみる。毎年、スポーツクラブのオンライン調査を実施している。(赤い線)400というクラブ数は、郡の連盟にはいてないクラブも入っているからである。2008年まではクラブ数が伸び



ているが、その後は横ばいである。私たちはこの変化に満足していない。クラブ運営はボランティア(マネジャー)が原則であり、クラブ数が増えるとボランティアが必要になる。ボランティア(自分の仕事がある。)を見つけるのが難しくなっており、クラブ数が増えても多様なコースが提供されている訳ではない。また、会員員数(緑の線)は、最近減少している。全部のクラブに当てはまるわけではないが、社会の一部の人々の階層で、クラブ離れが起きている可能性がある。詳しい分析は、これからであるが、想定できることは、最近、商業的なジム、フィットネスクラブがチェーン展開しており、入会者が増えていることが影響している可能性がある。今年度は、3月30日までに各クラブがオンラインで申告する。



カールストは、フィットネスクラブを持ったクラブで、20日に視察する。どのような分析をしているか、楽しみである。ベッカー氏が所属するスポーツクラブは、1万人を超える会員がおり、2つのスタジオを持つ大きなクラブである。仕事で行けないこともあり、みんな同様である。フィットネスクラブ(商業ベースでなくても)は会費が高い(月80€/1万円位)が、クラブにとっては大きな財源である。伝統的クラブは専任コーチ置けない状況にあるが、カールストはスポーツ連盟に属しながら、フィットネススタジオを持ち、専任コーチを置いている。会員1万人以上のクラブは専任コーチなしでは無理。1万人以上のメリットは、お金が集まることで、子供・青少年などは会費が安くしてもらえらる。

- ・300人以下 (71.3%) 専任スタッフなく運営できる
- ・300~1000人 (22.8%) ぎりぎり専任無しでも仕事の片手間にできる。
- ・1000人以上 (5.9%) 選任が必要。パートを雇う。

1800~1900人になると、ボランティアだけでは無理。専任を置くには、ある程度の会員数により人件費のねん出が必要。小さいクラブは地域の人会員で、地域のボランティアを集めて運営するが、大きいクラブは地域以外からも会員が参加し、地域のクラブとは言えなくなってくる。専任を雇い、将来性がある。

スポーツの家には4つのドアがある。①スポーツ課:クラブが何を考え、何をしていくか、クラブの財政的な補助が仕事。②郡のスポーツ連盟:クラブの統括団体。③スポーツ財団=競技スポーツ選手の補助・育成。④スポーツ相談所:クラブや市民スポーツ活動の相談(一般含む)、支援コンセプト立案。スタッフ数は、スポーツ連盟6名、その他の部署6名、計12名働いている。連盟は役所でないが、連携を取りながら進めているのが特徴。

<スポーツ課:1F>

講師 リーザ・カレーナ氏(女性 レスリングで活躍):夏以降小学校を視察し、能力のある子を探すコンセプト



作りをしている(2年契約、試験的試み)。ケルン大学と共に4~5名(ライセンスを持っている)のチームを作りテストや種目を一定期間見ていく。体力や能力に優れた子供がいれば能力を発揮出来るクラブを紹介する(強制しない)。

講師 ヤムシ氏:競技スポーツ選手のサポートを行っている。各州の拠点との連携をとっている(何が上手くいって、何が欠けているか)。活躍中の競技スポーツ選手が何をすればよいか、若い人を育て上げるトレーナーやコーチをどのように養成するか、能力のある子供達の事をクラブや財団に情報、関係を伝える。デュアルシ

ステム(セカンドキャリア)は、選手達に将来の準備をさせる取組であり、州レベルからある地域の強化拠点で相談できる。

Q:小学校へ行くだけでわかるのですか。

A:見てわかるのではない。関連するスポーツをしてもらう。体操の先生から情報を貰い子供達と話をしながら決める。ドイツの考え方は、子供達の体型からでなく、子供達の気持ちを尊重し、子供、親が望んでから進める。子供は、一つの事が出来ると大体出来るのでいろいろ試してから決めさせる。

Q:8、9才日本の子供達は、このスポーツをしたいという意思をもっていない。ドイツは、違うのでしょうか。

A:ドイツも同じで、どんな仲間、どんなコーチで変わってくる。日本について思うことは、日本は、スパルタ指導だと思う。水泳など早くやれば良いスポーツでもない。

Q:日本では、どの様にしてメダリストを育てているのか。

A:水泳で言えば、小さい頃からスイミングクラブに通う、競技大会に出てタイムを競うタイムをクリアして行くとオリンピックに出られる。

Q:トレーニングは、どのくらいするか。

A:最低週3日。毎日泳ぐ子もいる。たいていは、2日に1回。4、5才から始める。しかし課題がある。小さい頃優秀でもオリンピックでメダルが取れないのでトレーニング方法が変わってきた。

Q:商業的クラブでなくて地域でサポートするシステムは有るのか無いのか。

A:水泳は、民間クラブでしたが、他は学校の部活動から始まっている。強化選手に成ると県とか国からいろいろな支援がある。有名な学校では推薦入学もある。

<スポーツ連盟:2F>

講師 マーティン・リンバッハ氏(大学を卒業して、ベッカーさんと同じくらい働いている):
大きな活動分野が2つあり、若い世代の活動の世話とシニア世代の活動のキャンペーンである。スポーツ少年団(25歳以下)のサポート計画を立てる、種目に応じて外国に連れて行く、夏休みの合宿(8~12歳の会員は誰でも参加できる)などの活動を行っている。クラブ内の25歳以下の若い人が、自らの活動を自ら支えるグループを作る試みを進めている。これに対して州から活動費を支給する。若い時代からボランティア人材を発掘・育成するプログラムであり、25歳以降も活動を継続するよう促す。夏までに10できる予定。サマーキャンプは、両親が30€それ以上は、州から出る。郡のスポーツクラブ予算は100万€(1億3千万円)である(郡の人口45万人)。シニア世代については、自立支援プログラムを実施。体力テストで現状を把握して、高齢になっても自分で動けるように予防する。



<スポーツ連盟・養成担当課:2F>

講師 メラ・マーク氏(女性):公認コーチ・指導者を養成する。参加者は、費用を払い郡のライセンスを獲得する。これが郡の財源になる。年間145コースの研修を実施している。ここでは生涯スポーツの指導者養成を行っており、競技スポーツは、別途競技団体による指導者資格がある。3年前からリハビリテーションスポーツコースの指導者養成も開始した。特にヨガ、フィットネスの指導者の関心が高い。他にも12才までの子どもの世話をするコースも考えている。年間約3,000人が受講する。



(記録:秋間)

ヤーン・カペレン体操クラブ TV Jahn 06 Kapellen



<事前 data>TV Jahn 06 Kapellen ヤーン・カペレン 06 体操クラブ
1906 年設立、15 種目・50 コース、会員数 1,700 名。ベースボール、ティーボール、障がい者スポーツ、フィットネススタジオ、心臓疾患者向けのプログラム、柔道、陸上、子どもたちのダンス、自転車、脊柱の予防矯正プログラム、体操、水泳、スキー、ヨット、親子体操教室、バレーボール、ウォーキング等、競技スポーツから生涯スポーツまで幅広いプログラムを提供している。

Präsident Klaus Calvis: クラウス・カルヴィス会長(柔道)

Vize Präsident Axel Schlüter: アクセル・シュリューター副会長(バドミントン)

理事: 4 名 その下に部門ごとに責任者がいる。

総会で 3 年に一度選挙にて選出。

総会の出席者は 10%位、5%位の時もあるが議題が「値上」とかの場合には出席率がアップする。

会員数: 1500 人 の内の 80%は市民だが、他の市にあるスポーツ施設を使用する為、その近くの人にも会員になる。(カペレン地域の人口 8,500 人)

パシブ会員は 5%(参加しない、脱会手続きをしない会員)だが、スポーツをしないで会員になり続けている人は少なくなってきた。

設立: 1906 年 その数年前に消防団として設立されたが、火事が起きなかったのでスポーツに変更した。

種目: 15~18 種類 体操、水泳、ベースボール、ソフトボール、太極拳、ウォーキング、テニス、ヨット(4m位の子供用、湖で乗る)、陸上、エアロビクス、中国風格闘技、親子体操、バレーボール、ダンス(ジャズダンス、モダンダンス)、リハビリテーションスポーツ、脊柱予防矯正プログラム、障害者スポーツ、心臓疾患者向けプログラム など

- ・心臓疾患者向けのクラスは必ずドクターとコースの指導者(資格を持った人)がいる。主治医がどこのクラスに行くようにとアドバイスし、費用は保険会社が負担。
- ・人気スポーツは体操。
- ・ハンドボール、バスケ、サッカーはない。周囲でやっているクラブがいくらでもあるので、他でやっていない種目をやる。
- ・年間 7,800 時間のコース。

指導員: 80~90 人で全てボランティア。但し交通費、ライセンス費は出る。

- ・お金が理由で活動するわけではない。
- ・ボランティアとは、申請する金額 340 ユーロでない人の事を言う。
- ・クラブの中の参加者であった人が資格を取って活動する 資格取得費用は各部門が出す。
- ・「自分のスキルを若い人に伝える」「他人のために働く」が生きがいで活動している。
- ・いろいろな人の指導を受けてきて、それを返したい。子供がクラブにいれば一緒に指導したい。
- ・ちょっとしたお小遣い稼ぎと思ってやっている人がいるクラブもある。

プール: 1994 年、町の所有であったが町の費用が出なくなったため「閉じるか」となったが、1998 年クラブが買い取った。

- ・維持費が多額に掛かるため今年、町と話し合い市民が使うプールであるので 5 年契約で 6 万ユーロ、サポートする契約が取り交わされた。ただし 5 年後は不明。



1 ホテルレストラン
STENBROCK で昼食

・子供たちの水泳クラブのみでなく、開放してお金を取るようにしている。

・8時～21時

フィットネス:会費 月 24 ユーロ (プールも使用できる) 17時～21時 休みなし

運営状況:利益はないが、赤字にはなっていない。しかし、プールの修理等が必要になった場合はわからない。

・体操だけであれば、会員以外の収入はないが、プールがあることで町から補助がもらえる。

・町には企業がないので、住民は都市に働きに行っているため、寄付は期待できない。

・寄付を受けるためにはどんな宣伝をしなければならないか、寄付をもらうためにやるのが大変で、スキルを持った人を雇わないと出来ない。

・テニスコートは所有 体育館、野球場は町にお金を支払い利用している。

(記録:南波、末廣)



オルケン体操クラブ Turnverein Orken 1896 e.V.



<事前 data>TV Orken オルケン体操クラブ

オルケン体操クラブは 1896 年に創設された、長い歴史を持つクラブである。当初は体操を中心に行っていたが、1960 年から多種目型クラブに移行、現在は、様々な種目が楽しめる生涯スポーツに力点を置いたクラブとなっている。会員数約 970 名、種目は体操、陸上、バレーボール、卓球、柔術など 30 種目、呼吸・循環器系疾患の子どものコースも設置され、医師との協力体制を強化しながら指導、高齢者の運動教室も盛んである。特に、女子の体操チームのレベルが高く、オルケン体操クラブ出身のコーチが指導している。また、格闘技系のスポーツも人気があり、80 名ほどの会員がいる。会費は子ども 4.9 ユーロ/月、青少年 5.6 ユーロ/月、大人 7.7 ユーロ/月である。自前の体育館、柔道場、トレーニングルーム、ビーチバレーボールコートがある。

TV Orken : Präsident Heinz-Peter Korte:ハインツ・ペーター・コルテ会長

当日は、コルテさん(理事長)、クメロークさん(事務局長)ほかクラブ員の方に迎えられた。クラブを代表してコルテさんより挨拶をいただいた。

- ・Peter koeteさんは、ボランティアで3つの役割を持っている。クラブ理事長・町のスポーツ連盟の会長・郡のスポーツ連盟の副会長。
- ・クラブ会員数 約800名。独立したクラブで独自の活動方針をもち、全施設がクラブ所有。施設の維持管理等を含め全てボランティアで行っている。1つの種目のクラブもあるが非常にさまざまな種目のプログラムを提供している。アーチェリーや格闘技など。
- ・見学の前に持参のお土産をお渡した。



アリーナ見学

- ・1961年に一番古いアリーナが完成。1991年、会員400人が2年半かけて新しいアリーナを建設。古いアリーナの壁に穴をあけて新しいアリーナと行き来できる。アリーナには仕切りがしてありそれぞれフットサルや少林寺拳法がおこなわれていた。全て自主練習で仕事帰りにクラブによるらしい。仕切りをはずせば広く使用でき、クリスマスイベントの時には床があがり舞台にもなる。

用具庫見学

- ・卓球台、バランスボールほか色々な道具が揃えられている。Schleuder というひもがついたボール投げの道具があった。

トレーニングジム見学

- ・高齢者の筋力トレーニングや体力テストを行う(体力テスト説明の写真あり)。
- ・リハビリテーションスポーツに関しては指導者がいる
- ・体力テストは生きるために必要な能力としてアメリカより導入された(60才で実施)。運動しながら自分で筋肉をつけてもらう。運動習慣を身につけてもらい継続を促す
- ・学校の子供たちにいろいろな問題が発生してきている。平均台を普通に歩けないなど。その為、子供用の体操関係の特別なプログラムを用意している。1才半からは親子での遊びのようなものから、4~5才では子供のみでのプログラムとなる。

サッカー場

- ・夜間照明あり。人工芝、市の所有、近くにサッカークラブあり。見学のあいだ高校生くらいの子供たちが練習を行っていた。

その他施設

- ・直線の陸上コース 110m、5レーン。ビーチバレーコート(夏のみ使用)。

その他

- ・コート整備の際に爆弾を発見し、3個とりのぞいている。
- ・プラスバンドがありイベントに参加している。
- ・ロゴマークの説明がありました(体操をイメージしている)



サッカー場

視察のあとはクラブルームにて理事との懇談及び夕食。メニューは、カリカリに焼けたポークソテー、紫色の酢キャベツ、ポテトで、飲み物はビール、ソフトドリンク(コーラ、ジュース等)、水と揃えられていました。ビールはカウンターにてビールサーバーで提供され、それぞれに満足な食事でした。

食事の後はクラブ 123 荻窪のメンバーによる茶道のお手前の披露です。オルケンクラブの方々はお茶のお代わりをされる人が多かったが、ベッカーさんは苦手なようでした。またクラブの一番若い方はお茶をたてると

ころまで体験し楽しまれていました。クラブ 123 荻窪の皆様、茶道具の準備、事前の練習など、お疲れさまでした。

その後、クラブのパンフレットやボールペン等のお土産をいただきホテルまで徒歩で帰りました。



体カテスト



クラブルーム窓よりアリーナ



クラブルーム風景



多田さん通訳の茶道の説明を聞いている皆さん



入江さん（左）と秋間さん（右）

（記録：秋間）

3月19日(火)

- 9:30 ホテルフロント集合
10:15 車移動 ノイス水泳クラブ Neusser Schwimmverein 昼食
車移動 ユーヒェン Jüchen
14:20 ロートヴァイス・クラブ SG RW Gierath
車移動 ホテル(夕食はフリー)

ノイス水泳クラブ Neusser Schwimmverein 1900 e.V.



Neusser Schwimmverein : Geschäftsführerin Gisela Hug : ギーゼラ・フーク事務局長

ライン・ノイス郡スポーツ連盟のバスで移動。運転はキズラー・フックさん(カレーナさんの母)。

ギーゼラ・フーク氏は、スポーツの家で33年間勤務。このクラブに関わって35年。若い時からこのプールでトレーニングをしており、1976年から水泳の連邦公認選手。



プールは、ノイス郡に3つある中の1つ。町のゴミ焼却熱エネルギーを使用した町の温水プール。クラブと一般とで半分ずつ使用している。良い環境でトレーニングができる。25m×5レーンで、州の強化拠点に位置付けられている。50m プールは別にあり、選手はそちらでトレーニングする。ここでは主に、若い人達がトレーニングしている。屋根が開閉式で、福島の子供達が泳いだことがある。

クラブハウスには、レストランがある。

会員数:2000人、その内子供が1000人。週に3~4回通う子供は300人、他は初心者。子どものニーズが多く、会員は増えている。クラブは入・退会自由。特定地域が対象ではなく、ノイス郡外から来る会員もいる。ノイス郡内に会員2,000人以上のクラブは3~4あるが、そのうちの1つ。

主な種目:水泳・近代5種(フェンシング・射撃(地下にある)・水泳・陸上・馬術)。
1960年代から70年代には、オリンピック選手が2人いた。

指導者:40人。有資格者がほとんどだが、高額料金は払っておらず、ボランティア。1番上のクラスにのみ専任コーチが1人いる。グループ指導に当たる者は全員ライセンスを持っている。

運営役員:全員がボランティアで選任はいない。

子供達のコース:100~200コースを提供。各コースに子供達を振り分ける。続けてもらうための様々な努力をしている。週に1日から4~5日まで、様々なコースが有る。16~18才の国際大会レベルのクラスは毎日実施。朝は6時(学校が始まる前)からトレーニングする子どももいる(15人位)。

財政:会費は年間100€。優秀な専任コーチは人件費がかかる。寄付を募り、行政の助成金にも頼っている。100人が大会出場レベルで、月2~3回の参加費用はクラブが支出する。

学校との関係:水泳が習いたくても指導できる教師がいない学校はいくつもある。6つの学校と連携し、授業の一環として水泳指導を行う。幼稚園、特殊学校(不登校児・障害児など)とも連携し、契約を結んで授業を実施している。

学校の課外クラブ活動(日本のクラブ活動)の指導顧問は教員であるが、人材が見つからないときはクラブとパートナー関係を結び、指導者を派遣する。4~5年前から学校の終わる時間が16:00にな



った。午後は課外クラブとして文化・スポーツ活動を行う。水泳、陸上(ラン)、フェンシングの指導者を学校に派遣。派遣できる指導者は限られている。現在は、水泳のニーズが高い。かつて、水泳は親に習うものだったが、最近はまれなスタイルである。課外クラブは、水泳3ヵ月、バスケ3ヵ月、サッカー3ヵ月など、1年複数種目を行う競技スポーツの特殊な形(アーゲー)もあるが、一般の子どもは生涯スポーツとして年間を通じて1種目を行う。

ノイス市の場合、クラブはプールの利用料が免除されている。ノイス郡内でも制度は町ごとに異なる。指導者派遣料として、年間250€の州からの入金がある。

Q:学校が16:00までになったのは、学力を上げるためですか。

A:16:00までの学校が増えているが、一概には言えない。学力を上げるためと言われることもあるが、むしろ共働きで子供の面倒を見られない社会的な理由が大きい。かつて、午後は家庭に両親のいずれかがいたが、変わってきた。半日制で午後は文化・スポーツなどのクラブ活動を行う学校、週に2日程度16:00まで授業をする学校、全日制(毎日16:00まで授業あり)の学校がある。校長・親・生徒の代表による会議で決める。複雑な現状であるが、その特徴により両親は学校を選ぶ。



Q:クラブの歴史を教えてください。ここにクラブがあったからプールができたのか。

A:1900年設立。名前にノイスの水泳クラブ1900と出ている。プールは、55~60年前頃に屋外プールとして作られ、10年ほど前に今の形になった。ゴールドンプラン(ドイツ全体にスポーツ施設を作る計画)に基づき、1960年代にできたのだろう。その前からクラブが存在していることを考えると、何らかの形でクラブ会員が泳いでいたと思われる。ライン川で泳いでいたのかもしれないがはっきりしない。

Q:年間100€で何回でも施設を利用できるのか。

A:市民(会員外)は1回2€。週1回利用で計算すると年間約100€である。コース参加は週1回のみで、他はフリーで使用する。会員になれば使い方は自由で何回でも使える。

子供達の場合、週3~4回のハイレベル(大会出場)コース(指導者あり)も同額である。

コースの構成は、夏休み・クリスマス休み・イースター休みの年3回の休み中に、2週間毎日実施する集中コースがある。休みと休みの間に週1回のコースが新しく開かれる。

Q:コーチ・指導者を学校に派遣する理由は。

A:水泳を学びたいというニーズに応え、子供達の手伝いをしたい。また、指導を通じて能力のある子供をクラブに誘いたい。

Q:指導者はどう教育するのか。

A:2つの機関で養成する。1つは州・群スポーツ連盟の養成所のコースで資格を取る。もう1つは競技団体の養成センターの研修に通って資格を取る。クラブ独自に養成するわけではない。

Q:どのようにコーチの資質を見極め評価をしているか。

A:ボランティアの指導者は手伝ってもらっており、雇っている訳ではない。

問題が出たら直接話し合いをする(ボランティアなので)。また、クラブ内で指導者の研修コースを設けている。ドイツでは、テストで評価せず、参加者だんだん減っていくとおかしいと思う。親がクラブにクレームを出すと分かる。体育館などの種目と違い、水泳は事故のリスクが高いので注意をしている。子供の世話は、クラブ関係者や指導者だけでなく両親が着替えをさせるなど、役割が大きい。

会員2,000に対して専門性の高いコーチのもとで優れたコースを提供したいが、そのために経費をかけられる



ような財源はない。一般の人に手伝いによって補ってもらおうなど、どうしたら上手く運営できるかを常に考えている。

2000年に、100周年イベントで1000人リレーを行いギネス記録になった(当時)。

Q:指導者のパワハラ問題は、ドイツ国内で話題になっているか。1990年以降東ドイツと一緒にした後、スパルタ教育の影響が西ドイツにもあったか。

A:厳しいコーチはいたが、方針が合わなければ雇わないし子供のコーチに就かせない。一番上のクラスでも無い。ドイツ全体でもあまり聞かない。ドイツははっきりしているの、両親が引き離す。

Q:子供の送迎について。

A:基本的には、両親が行う。勤めがあるため、16:30ごろから。全日制(16:00まで)の学校は、学校が送ってくれる。

Q:理事の人数と体制を教えてください。

A:全員で7名。会長、副会長、事務局長、競技スポーツ責任者、生涯スポーツ責任者、広報責任者、経理責任者各1名。現在は、実質的に3人で動いており、適切な役割分担を議論中である。

Q:年間の財政規模と、寄付、行政からの助成金の割合は。

A:予算全体は30万€で5つに割り振られる。①会費、②寄付、③助成金(州・ノイス市・ノイス郡)が3分の1ずつ、④トレーニング合宿(子供)の参加費5万€、⑤会員外のコース参加費である。

Q:クラブハウスの使用について

A:水曜日の夕方は、会員であれば誰でも使える。決まった人がメニューを考え料理を提供して懇親会をする。週末は、貸している(有料)。若い人々の催し、映画会やクラブ内の研修で使用する。両親が集まりテーマを決めて話し合う懇談会も。個人的な使用は有料、クラブの使用は無料。

Q:大人のコースはどのようなものがあるのか。

A:背中が固い人のコース(背の学校)、水中エアロビクスなど、週6日実施。指導者がプログラムを作って募集する。水泳以外では、太極拳、空手、バレーボール、スポーツ体カテスト(バッヂテスト)、近代五種。

Q:フックさんの本職は、役所の仕事ですか。

A:今日は郡のお客様の対応として来ているので郡の仕事である。クラブの仕事をするときは休暇をとる。郡の仕事16:00まで。終わってから17:00までコーチコーチをする。学校との連携(指導者派遣)は、仕事をしている人が多いので指導者を見つけるのが大変。お金がないので専任が雇えない。

Q:コーチが休む場合は。

A:コーチに休みにより子どもに何かがあるとクラブの責任を問われ(場合によっては、法的に訴えられることもある)、クラブの信用に関わるので、代行を立てて対応する。



敷地内に移民のための仮設住宅があった(今は使っていない)

(記録:秋間)

ギーラート・ロートヴァイス共同スポーツクラブ

SW Rot-Weiß Gierath



<事前 data>SW Rot-Weiß Gierath ロートヴァイス・ギーラスクラブ

「ラート」の他、一輪車、合気道、バスケットボール、親子体操教室、フィットネス、器械体操、柔道、

ダンス、高齢者スポーツ、ステップ・エアロビクス、卓球、バレーボール、ウォーキング等の幅広いプログラムを実施している。

SG RW Gierath : stv. Vorsitzende Sandra Koglin: ザンドラ・コグリン副理事長(女性)、郡スポーツ連盟会長



3つのクラブが一緒になってできたクラブ

・1回目 2005年 1948年創立の卓球クラブと1962年創立の体操クラブが統合された500名

・2回目 2008年 1983年創立のバスケットボールのクラブ500名が加わった(他のクラブに所属していたが強くなりたい等でこのクラブに移動した)

合計1,000名弱(二つのクラブに入っていた人もいる)、現在は1,200名。

種目:一輪車、ラート、バスケットボール、卓球、幼児体操(週2回しか体育館取れず)

統合:統合前は、それぞれのクラブに理事長がいて会員がいる。法的なものを守りクラブを作っていた。統合にあたり、それぞれのクラブで総会を開き、理事長が良い点を説明して全員の合意をとりつけた(定款では2/3の賛成が必要)。

- ・各クラブが統合後の名前、会長候補、役員職などを話し合った。
- ・なぜ合併したか:卓球クラブは他種目になる、財政困難、役員になる人がいない為と考えた。体操クラブは会員数が増える。理事などをやってくれる人が増える。などと考え、クラブごとに統合の意味があると大半の人が賛成し、混乱することなく進められた。
- ・2回目の合併は理事長同士が話し、3時から4時子供向けの体操部門があったが、一輪車やラートで補えると考えた。

合併の利点:会員数が増えることで、役員、理事を見つけることが容易になった。

- ・当時は1面の体育館だったが町は解体して売却、3~4年前に新しい3面ある体育館が完成し全ての種目がここで出来る様になった。
- ・町から無料で借りている。コートは町からもらった。
- ・卓球クラブは100人、体操は400人小さなクラブから大きくなった 合併により町の対応がよくなった。以前は大きい体育館が欲しいと要望していたが聞いてもらえず、合併によって得ることが出来た。政治力が大きい。
- ・サッカークラブは冬場に体育館を使用できるようになった。
- ・バスケットボールはレベルが上がった。



ベッカーさんの意見:小さいクラブが先々の将来性を考えると統合は良い事だろう。

- ・347の郡のクラブ理事がいて、いろいろな人がいる。クラブをまとめる力のない人が運営しているところも有り、役員とクラブ員が分裂するところもある。
- ・一般的に小さいものが大きくなることはいいという事があるが、大きいクラブにも問題が有り、その解決は各部門で話し合っ分かれることがある。バスケットボールクラブはレベルを上げたいという意見と生涯スポーツでいいという意見で折り合いがつかなかった。



・一つプロジェクトが動いている 学校総合学科の中にスポーツ学科を作ろうとしている。(バスケットボール中心のクラス)

組織: 16人のコース指導者とサポート支援者が在席。

指導者になりたい人を養成コースや郡の研修、Cライセンス前のライセンスを取得させる。

事務局では会員の登録、退会の登録、相談、グッズ販売(宣伝やプレゼントの為)をしている。

理事長1 副理事長1 経理2 事務局長1

特別プロジェクト(新しい事を考えて進めていく)経理1 IT専門家1 クラブの役員以外1(若手)

ラート: 大きい方ほど複雑になっている(80 kg) 身長によって使用するラートが違う。

バスケットボール: 週に2回の練習が基本 始めたばかり 別々のクラスが合同で練習する時もある。目標はトップになって全国大会に行く!



(記録: 南波、末廣)

トピックス: 街の散策で見つけたもの



家の壁の下に穴が空いているのは何のため?



おしゃれなデザインがいろいろ。さすが、ドイツ。

3月20日(水)

ホテルフロント集合
車移動 カールスト Kaarst
9:35 SGカールスト SG Kaarst 昼食
車移動 グレーベンブロイヒ Grevenbroich
散策、ショッピング
17:00 徒歩移動 TUSグレーベンブロイヒ TUS Grevenbroich 夕食
徒歩移動 ホテル

SG カールストスポーツ共同体 SG Kaarst 1912/35 e.V.



<事前 data>SG カールスト 1912/35 e.V.

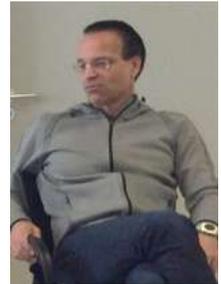
カールスト市内の2つのクラブが1972年に合併して誕生した地域のスポーツクラブである。「健康の最前基地」というキャッチフレーズを掲げ、フィットネスセンターの開設やプログラムの見直しなど積極的な改革に着手した結果、会員数が2,800人(1999年)から6,000人(2014年)へと倍増し、ライン・ノイス郡最大規模のクラブへと成長した。クラブには、体操、バドミントン、フェンシング、チェスなど23部門(種目)があり、それぞれ活発な活動を行っているが、「競技スポーツ」「生涯スポーツ」に次ぐ第3の柱として、「健康スポーツ」を前面に打ち出したことが会員数倍増につながったものと考えられる。

SG Kaarst : Vorsitzender Andreas Warnt: アンドレアス・ヴァルト理事長

当日は、アンドレアス・ヴァルトさん(専任者)に迎えられ施設案内及びDVDによるクラブ紹介をしていただいた。まず入口を入ったところで撮影についての注意があった。

クラブ紹介

- ・1912年に最初の体操クラブ設立、体操ブームがあった。
- ・2001年に銀行より250万ユーロ(約3億2千万円)の借入をして訪問した施設を建設する。
- ・責任者はチーハさんともう1名の理事で専任者。フルタイムの常勤者で、任期は3年。2人の上に名誉職の顧問(相談役)が数名いる。
- ・クラブ会員数は約5600名。
- ・営業時間は、朝6:00～夜23:00まで。
- ・種目ごとの責任者はボランティアだが、重要なリハビリ、体操競技、ダンスの3種目には専任者のコーチがいる(専任者は常勤らしい)。
- ・他のスタッフは、クラブ事務責任者、経営管理、会員管理 受付など。
- ・専任の宣伝担当者がいて、デザイン・広告・チラシの全てをクラブで作成している。
- ・19種目(定期的なもの)、テニスクレーコート8面あり、町営のサッカー場人工芝2面。
- ・バレー・バスケットは9つの学校体育館を利用して実施。施設費は有料。グレーベンブロイヒ市、ノイス市は使用料無料だが、カールスト町は使用料が必要。
- ・一般的な利用料は、利用種目に応じて変わるが、入会時の登録料は6ユーロである。あとは種目ごとで、最低、月10ユーロから最高は、月45ユーロでサウナも利用できる。



クラブ入口



クラブの近くの学校

- ・リハビリの場合は、参加者は払わず保険会社が支払う。利用は医師同伴で確認がある。
- ・クラブ収入 160 万ユーロ(約2億 500 万円)、支出も同じで収益をあげない
- ・各部門ごとに毎年予算の申請があり承認された予算で年度の事業内容を作っている。
- ・建物敷地は、借地権で99年の利用契約である。テニスコートは、20 年契約
- ・クラブの脱退は、6月と12月の半年契約になっている。その間は月々の支払が必要。



施設見学

- ・専用のフィットネススタジオがあり、13 歳から 99 歳までの1200名が利用。
- ・循環器系のトレーニングには必ず指導者がつき、個別メニューを作成する。運動前には健康チェックが行われる。
- ・更衣室にはサウナ、シャワー完備している。
- ・それぞれの部屋には週の予定表が掲示してある。利用者は、午前は女性が多く、午後は誰でも利用できるものになっている
- ・スタジオではエアロビやギムナスティック、バランスボールとばちでリズムをとり練習中だった。
- ・午前中はカーテンや仕切りをグループ毎に使用するが、午後は大きな部屋にしている。床は特別製の振動しないものになっている。ガラスは紫外線カットのもの、鏡及び冷暖房完備である。
- ・廊下には、スタッフの顔写真が掲示してあり、専任スタッフは55名。ボランティア280名。
- ・下の階は競技者のトレーニング場でありクラブよりオリンピック選手が2名でている。
- ・ボクシングは試合念頭で練習でき、同じ階にシャワールームがあり着替えも可能。
- ・自転車競技の冬のトレーニング室あり。
- ・多目的室 室内自転車の練習、マットにて柔道の練習ができる。夕方は利用者が多数。
- ・ボールを利用したりハビリの見学
- ・あらゆるスペースを利用してエアロバイクなどがおかれていた。

DVDにてクラブ説明及び理事との質疑応答

- ・8分間の DVD を見ながら詳しい説明があった。バレー、ハンドボールがポピュラー。その後、質疑応答となったが、逆にクラブから我々への質問も受けた。クラブ詳細の質問への回答内容は、最初のクラブ紹介に追記しました。後日、DVD データの入ったメモリーと印刷された資料(会計の資料他)を2点いただいた。

クラブとの質疑応答など

- ・クラブ員は、18 才になるとやめてしまうという状況のなかで、フィットネススタジオがアメリカからブームが起り、19 才~50 才までの人をクラブにつなぎ止める為に、現在の施設を建築した。1900 年代後半では3500 名位の会員が現在の人数まで増加した。
- ・学校の授業が午後までのびた為、午後に学校の体育館が借りられなくなった。今の施設で事業が行えるように地下のスペースも有効活用している。現在、建物はフィットネスで 50%、その他で 50%利用している
- ・学校との連携は、①午前に体操、フェンシング、午後にチェスを実施(学校の授業)
 - ②体力テストを2年生に4種類実施。4年生にも実施。(8 才.10 才で)
 結果は、小学校長に伝えるが、本人・保護者には学校より伝える。クラブは推薦のみ
- ・ボクシングでは、南ドイツに拠点センターがありクラブ出身者1名が行っている。リオ五輪出場者。体操は、デュッセルドルフに拠点あり。
- ・体力テストについて 17 年前にデュッセルドルフ市で始まり、結果分析を活用した。現在、ノイス郡では主にタレント発掘だが、別の側面があり、もう1つは問題のある子がいるか確認している。
- ・小学校の体育について。1~3 年は体操、陸上競技、4~5 年は球技、レスリング、水泳、バドミントンなど、

10～11 才は専門の競技スポーツ

- ・営業時間は、平日6時～22時、土曜9時～18時、日曜9時～17時。働いている利用者は、早朝の出勤前や終業後に利用する。指導者によりカリキュラが作成され到達レベルがわかる。理想の利用回数は、週に2～3回決まった時間帯が良い。月45ユーロで全ての施設やサウナまで利用可能。
- ・障がい者の受入れ体制、利用について。車いすは需要が少ない。ダウン症児童がオリエンタルダンス利用中。障がい者向けのプログラムというよりシニア高齢者向けに総合的なメニューを提供。精神障がい者向けには別途あり。

クラブからの質問

- ・メンバーを紹介して下さい。

(黒須先生から)昨年より東京都の総合型クラブメンバーとノイス郡研修訪問、今年も同様。以前は日本体育協会によりマネージャー研修会実施。日本に総合型クラブは増えているが、ドイツの先進事例を知りたいと訪問した。

- ・日本の問題点は？

小学校はスポーツ少年団、中学は部活、またはクラブチームと、総合型クラブとは関係なく、それぞれ連携がない。

- ・クラブ財政などの質問があった。

受付横のレストランにて昼食(写真参照)

レストランは業者に入ってもらい、クラブは運営していない。写真のようにガラスケースにはキッシュなど色々並べられていた。メニューは、骨付きチキン、ポテト、トマトの煮込みオリーブ添え。飲み物は、ソフトドリンク(コーラ、ジュース等)、水(炭酸ありなし2種)と揃えられていました。

食後は、入口で集合写真を撮影し、ライン・ノイス郡スポーツ連盟のバス等でホテルまで送っていただきました。



レストラン(クラブ受付の向かって右側)



部屋の入口に掲示している予定表



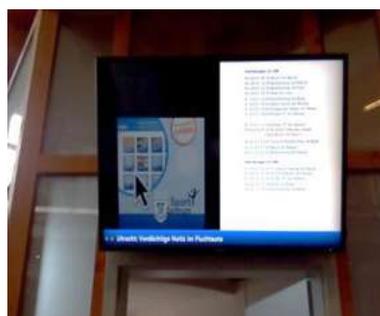
地下にある自転車練習場(冬場のみ使用)



チェスも種目の一つ



ディスプレイによるクラブ宣伝



(記録:飯村)



TUS グレーベンブローイヒ体操クラブ TuS Grevenbroich

<事前 data>TUS Grevenbroich TUS グレーベンブローイヒ

1911 年設立、サッカーを中心に、ハンドボール、ビリヤード、バレーボール、心臓疾患患者向けのプログラム等の多種目の事業を行い、会員は全体で約 1,000 名、うち 600 名はサッカー会員で、シニア、ジュニア、ユースを統合したクラブとして発展している。

TUS Grevenbroich : Vorsitzender Friedel Geuenich:フリーデル・ゴイエニヒ理事長

クラブ経理 アンドレアス ピッケルさん(ご家族がお手伝いしてくださいました。)

クラブ理事 トーマス ゴスキーさん(以前は、第1のチームで活躍。今は、コーチ)

ここは家族的クラブ。ドイツでは、今日は伝統的に<春の初め>と言われている(日本の春分の日)。スポーツクラブでは、バーベキューが好まれる。

もとは、グレーベンブローホの創立者の居城で、クラブの建物にするための特別な許可を得ている。町に根付いたクラブで、ドイツの典型的なクラブ生活の拠点である。町の助成を受け、古い建物を新しく建て替えた。クラブハウスに地下もできたが、完成状態ではなく、トロフィーやクラブ出身アスリートの写真などを今後飾る予定。所有者である町と話しあって決める。



外の施設へ

- ・グラウンド:天然芝と人工芝を90:10でミックスさせたハイブリッド芝生。ここはトラックの灰、土により芝を痛めるためにそうしたが、天然芝か人工芝のいずれかにするのが一般的。
- ・観客席:数十年前は、最高 2000 人。今は、最高で 1200 人。テレビなどの影響。
- ・人工芝のサブグラウンドがある。利用者は子供、青少年など。両方使う事によりハイブリッド芝生を傷めないという利点がある。
- ・今練習しているのは 7~8 才の子ども約 15 人、17 時から 1 時間ほど練習。その後、上の世代が来て 22 時まで使える。コーチは、2~3 人。子供は勝手に動くので、1 人で対応することは例外。照明は LED で、両グラウンドにある。日中と同じくらいの明るさになる。新しく設置した。森の中にサッカー場もある。
- ・別のクラブが隣接しており、陸上とカヤック・ボートクラブがある。(※)

クラブの概要

- ・1911 年にヨーゼフ・カペレン氏によって創立。当時は、空地でボールを蹴っていたところから始まった(イギリスからスポーツが輸入された歴史が影響している)。クラブの紋章は町の紋章を一部利用(お城・ライオン)。クラブのカラーは赤と白。名前の由来は、TU⇒体操・S⇒スポーツ・F⇒サッカー・C⇒クラブからきている。現在のクラブ名は、FC TUS Grevenbroich。サッカー以外の活動もしているが、サッカーが最重要である。



他に、ハンドボール、ビリヤード(成績優秀)、バレーボール、バドミントン、体操、コロナの 7 種目。心臓循環器系運動(医師が付く。大勢が活動。重症者が通常の生活を送るのが目的)も実施。

・1925 年に町がこの施設を作り、サッカー、陸上のトレーニングをしていた。1928 年アムステルダムオリンピックの陸上 200m にクラブ所属の選手が出場した。

・ドイツでは、アマチュアスポーツとプロスポーツを分けて考える

必要がある。ここは、選手、会員、指導者、コーチ、すべてボランティアベースで活動している(社会人や学生)。

・1950～60年代は、最もサッカーの成績が良かった。州の6部リーグだったが、現在は7部リーグ。

・クラブハウス内には、体操をするための部屋があり、午前中は学校の体操の授業に使用する(サッカー場も)。クラブの各部門が仕事をする部屋や、監督の部屋もある。

・1947年に、戦後の新しいビジョンでの活動が始まる。かつては男性中心だったが、性別・年齢・社会層を超えてスポーツを楽しむクラブになった。

町の人口:67,000人 クラブ会員数:1200人

スポーツクラブ数:72(そのうちサッカー連盟登録クラブは10、このクラブはその1つ)

・10のサッカーチームはそれぞれ異なる伝統があるため、統合は難しい。サッカー連盟の構図は、ドイツ全体の連盟があり、その中に地区ごとにまとまった組織がある。ここは、ニーダーライン下流地区に属する。

クラブの構図

・会長:ローター・チママン氏

会長は、サッカーシニア、ユースなど部門ごとのクラブ理事による総会で選出する。2011年にクラブ創設100周年記念を行ったことが誇りである。

・経理:アンドレアス・ピッケル

・事務局長:ルネ・ダナーズ

・監査:

・サッカー部門:理事6名(責任者・スポーツ責任者・事務局長・経理担当者・監査・会長)

1911年当時、自分たちの試合に多くの人が訪れた。小さいころからサッカーをやった人たちが残って、大人のチームを形成している。各部門に経理や事務局長がいる構図。

・ユース部門:理事4名(リーダー・マネージャー・会計・監査)

最年少は一人でトイレに行ける年齢5才位から始める。2年ごとに上のクラスに上がり、青少年の一番上のAクラスは16歳以上。

G・F・Eは男女一緒、Dは男性のみ、A・B・Cは男女両方ある。13チームあり、指導者は35人。

・女性部門:理事1名。

・女性サッカーコーチ:ユルゲン・フェルヒ

ユルゲン・フェルヒさんは、青少年部の責任者・女性サッカーチームのコーチをしている。2007年3月から関わっており、当時は息子のいるCクラスのコーチだった。娘にコーチを頼まれたとき、「14人集まったらコーチをしよう」と約束したら、2週間で14人、6週間で35人集まった。当時のサッカーは男性社会の為に反対や困難があったが、今では女性のサッカーチーム無しではクラブ運営は考えられないほどになった。

3名の女性サッカー選手(クラブでの練習は週2回、1時間半)と男性2名の紹介。

・レア・レーバンさん:クラブ歴5年。サイドバック。法律事務所勤務。大学で経済法を学ぶ。

・ステファン・ライナートさん:1年前からクラブ会員。フォワード。郵便局勤務。ケルンから来ている。

・ワネッサ・マイヤーさん:3,4年前からクラブ会員。フォワード。美容師、主婦(お子さんがいます。)

・ピーター・ホーゲルさん男性チームのコーチ、60歳。数か月前からトップ



チームを指導。もとプロ選手で、ルイスブルクのチームに所属し、1部リーグ80試合出場。チーム強化のため招聘。

・ノエルさん:男性 20 歳。2 年前からこのクラブに入り、トップチームでプレーしている。経済経営分野、マーケティングの勉強中。ポジションはミッドフィルダー。別のクラブへ移ることは良くあること。移られる危険性を含んでいる。

財政事情

- ・支出は 7,800€。青少年部にお金が掛かる(ボール・コーチ料(デュッセルドルフから)ユニホームなど)。
- ・施設は町のサッカー場、体育館を利用し、利用料を支払う。
- ・ユニホームなどは、パートナー関係を結んだスポーツ用品販売所から50%で買える契約を結んだ。
- ・トレーニングは、通常どのチームも週2回、週末は試合をする。引率のコーチ・指導者にわずかだが支払いが発生する。
- ・収入は会費収入が80%(会費は年120€)。子どもは安くし、1 家庭 2 人以上の子供から会費を取らない。ほかは、助成金 5%、募金・ビジター会費などが 15%。
- ・ゴルフ、テニスは民間経営が多く、クラブの活動としてしているところは少ない。

(記録:秋間)



クラブハウスを囲む一帯はお城の雰囲気が残る

※隣接する別のクラブ



3月21日(木)

ホテルフロント集合

10:10 車移動 TSVバイヤードルマーゲン TSV Bayer Dormagen 昼食

車移動 ドルマーゲン駅

電車移動 ドルマーゲン駅～ケルン中央駅

ケルン散策

お別れパーティ 桃太郎(日本食店)

電車移動 ケルン中央駅～グレーベンプロイヒ駅 ホテル

荷造り(スーツケースは 23Kgまで!)

TSV バイヤー・ドルマーゲン体操クラブ TSV Bayer Dormagen



<事前 data>TSV Bayer Dormagen TSV バイヤードルマーゲン

TSV バイヤードルマーゲンは、バイヤー社から得るスポンサーシップの見返りとして、バイヤー社の従業員の健康管理にも貢献している。生涯スポーツから競技スポーツまで幅広いプログラムを実施している。水泳、陸上、フェンシング、ハンドボールの4種目は、州及びラインランド地方を代表する強化拠点施設になっている。

TSV Bayer Dormagen :Geschäftsführer TSV Bayer Dormagen Gesundheits GmbH Axel Bertz:

健康有限会社アクセル・ベルツ事務局長

創立:1920 年。バイヤー社の拠点にクラブを置き、バイヤー社の寄付に依存している。

会員:3,500 人。全体では 30,000 人。ドイツで一番大きい。ドルマーゲンには化学工業団地やバイヤー社の関連企業が入っている。バイヤー社の従業員 12,000 人とその家族がクラブの利用者であり、健康維持、相互交流の場になっている。健康の機会の提供が重要な目的である。

- ・競技スポーツはバイヤー社の重要なポイントで、大会でいい成績を上げることでバイヤー社の宣伝になる。バイヤー社は競技スポーツにかなりの費用を出して保障を与えている。その結果水泳、ハンドボール、フェンシング、陸上などメダルを取っている。
- ・計画として 2032 年オリンピック開催に立候補する。決定した場合はここが重要な拠点になる。

施設案内

プール

- ・オリンピックに使用できる。(21m×8レーン 水深は深い所で 2m) 年間を通して公開している。
- ・以前はバイヤー社の所有で、全国大会出場選手の拠点となっていたが、現在は民間の所有となっている。
- ・バイヤー社所有の時は、自社の焼却時の熱で温めていたが、民間になってからは燃料を買うようになった。
- ・冬でも 25～29℃に保つため、燃料コストがかかり問題となっている。



- ・プールには責任者を置き管理している。(安全の為)
- ・会員数 800 人 。赤字にならない様、町とバイヤー社からの補助がある。
- ・ベルクさんは健康担当でバイヤー社と契約している。原点は従業員の為のクラブである。
- ・利点は会社に近い為、水泳をしてから出勤する人、仕事帰りに水泳をする人がいる。
- ・夜のシフトの人は家に帰っても寝られない事が多く、運動をしてから帰って寝る。
- ・関節系に問題がある人は、水の中で解決する。
- ・1 か月会費 16 ユーロ この他の施設も利用できる。
- ・市民でもアルバイトでも誰でも利用できる 5 ユーロ。6~19 時。
- ・ここから他のスポーツ施設が近いことが利点。

体育館

- ・フェンシングはオリンピック強化練習の拠点となっている。
- ・コーチはナショナルチームのトレーナーがここで働いている。
- ・理事とナショナルコーチが在席し、何かを変えようとしている。
- ・一番古い運動施設は、床を取り変えないと出来ない競技もある。
- ・1960 年から施設の拡張が始まった。
- ・ハンドボール(強豪)の体育館は 2,500 人が観戦できる最新のスポーツ施設。サッカーグラウンドを移動して建てた。3 面あり、3 つの違う種目が同時に出来る。2002 年完成。
- ・陸上用のトレーニング体育館もあり、年間を通して使用できる。陸上は重点の一つ。
- ・若い人は環境がいいのでいきいきしている。
- ・維持費用捻出の為、イベントやコンサート会場として貸し出している。
- ・10 歳で来たハンドボールの選手はヨーロッパのマイスターのチームに入った。
- ・エアロビクスやヨガなどは 1 階で行っている。
- ・900 時間/週の活動。
- ・柔道の部屋 タタミ
- ・室内陸上トレーニング場では棒高跳びの練習ができ、ロンドンオリンピックの金メダリストもここで練習した。80mの直線ラインがあり、スタートの練習が出来る

グラウンド

- ・天然芝のグラウンドを人工芝に変える計画もある。
- ・サッカーは重点ではない。(施設を作る必要があるため)レバークーヘンはレベルが高いが、当クラブは低い。
- ・母親もクラブに通えるように、小さい子供たちの遊び場もある。

ベルク氏の仕事

- ・健康担当でバイヤー社と契約している。
- ・従業員が病気・ケガなどで欠勤すると平均 250 ユーロ(1 人)の損失となる。
- ・健康管理に 1 ユーロを使えば、3 ユーロが返ってくる。
- ・1 年に 1 度健康のためのワークショップに強制的に参加させるが、参加者は 5%位しかいない。



クラブが始まったのはこの体育室から



陸上競技場



屋内練習場



アリーナ

- ・従業員の体に問題があり、欠勤されると会社は損失となる。ドイツ全体では何 10 億の損失である。
- ・会社が決めても実行されないの、話し合いで同意を取っている。



クラブの重点

- ・従業員とその家族の健康のケアが重点
- ・以前は健康以上に、メダルをどれだけとるかが重要だったが、バイヤー社から補助を受けるにあたり、どんなことをすればいいか考えた結果、原点に戻り健康に重点を置くことに変えた。

ベルツ氏チームの課題

- ・バイヤー社が補助しているクラブは 56 から 6 に減少。会社からの寄付が年々減っている。
- ・企業に対してコースのデザインをバイヤー社に売り、その売上を施設の維持に充てることが出来る。

コースデザインの重要性

- 1) 健康管理の重要性を従業員に自覚してもらう（職場、仕事にリスクを負わない様に自覚してもらう）。
- 2) 個人個人で体が違うため、弱点は何か、ケガや病気をしない様にするには何があるか。
- 3) ワークショップの開催

- ・テーマは関節、ストレスを和らげる、栄養面。
- ・チャリティーの性格を持たせる。利益はチャリティーの目的で使う。参加者は全国からやってくる。
- ・医師が来て健康チェックをする。
- ・10,000 ユーロ(4 年間)を癌の子供たちの為に！
- ・広告を作ることは重要。宣伝のメディアを作る。実践したことで広める。

スポーツ科学の成果

- ・従業員が何をしなければならないか、ビデオを見て考えさせる `バイオメカリズム`
- ・従業員がケガをしない様に、どのような力がどの様な部分にかかっているのかを指導する。職場で物を持ちあげた場合、腰に 2.5N(ニュートン)がかかり、その他に肩の力、手の力が必要である。上体を前に傾けるだけで 4.7Nの力が加わるので、今は人間がやっている作業をロボットがやるようにして、人が前かがみにならないようにしていく。
- ・同じ負荷をかけても、個人個人が受ける影響は違うので、事前に個人を調べておき評価をする。3 年に 1 度調べる。
- ・ワークショップで自覚してもらう。知識を得たいという人はコンサルティングする。どんな問題をかかえているのか、動き、力、背骨のスキャン、姿勢など全てテストしてコンサルティングする。
- ・トレーニングのプログラムを組み、トレーニングはクラブ内で行い、力がどういう負荷をかけるか調べる。実際の現場でどうすればいいか、そのための手順を考える。
- ・3 年後次のワークショップをし、これを繰り返す。

Re-check → Gesund heltstang 2.0 → Arbeitpla-tra

健康マネージャーのポストが会社内にできて、チームが構成された。クラブとしてチームで作業をしている。

- ・データを会社に提供し、その見返りとして寄付を得ている。
- ・バイヤー社のプラス面としては、ケガや病気で休む人が減ることで損失が減る。
- ・以前は 55 歳で年金生活に入ったが、最近では 67 歳まで働き続ける従業員が増えた。
- ・ケガの確率が高くなることは健康管理が問題となり、ドイツ内で健康管理部が出来ている。
- ・バイヤー社の為にやっているが、他社からも問い合わせがあり、今後重要になっていく。

質問

Q:退職者の健康管理はしているか。

A:会社としてはやっていない。クラブに来てもらい、会費を払い、自分の健康の為に活動をしてもらう。

Q:企業とパートナー関係にあるフェラインは一般的なのか。ベルク氏(ケルン体育大学卒業でトップアスリート)がいるからできることなのか。

A:多くのクラブでも健康問題は重要である。いろいろなコースを考えて提供しているが、ここまで実際やっているところはないだろう。今後、需要は増えている。提供しているプログラムは非常に高度である。ベルク氏は13人でチームを組んでいる。レバークーゼンにも10人、コルデンゲンに3人、ウッパータールに5人など、バイヤー社があるところにいる。コースは全体で300人の指導者(スタッフ)により実施している。

ベッカー氏のまとめ

- ・7つのクラブを見てきたが、専門性、仕事の内容、雰囲気皆全く違う。ここは専門性が高い。
- ・通常、クラブは参加者が来るのを待つものだが、ここは逆で、企業に自ら出向き、必要性を説明する。ベルク氏は「絶えざる戦いを20年続けてきた」と言っている。目標を掲げたら一步一步やるしかない。
- ・ベルク氏は、日本の会社が日本の伝統であるラジオ体操から仕事を始めるのを見て驚いたそうである。時間のとり方が自由にならないから運動しない、ということの問題視し、会社と話し合い、運動の時間を確保したいと考えている。
- ・健康を害した人が出ると、小さな会社ほど損失が大きい。エンジニア職は、資格と技術を持つ人を見つけるのは難しい。選択される魅力ある企業であることが求められる。
- ・幼児は年齢が上がると運動する%が下がる。



質問

Q:ドイツは、日本に比べて労働時間が150時間少ないと言われているが、どうなのか。

A:時間をどう使うかが問題。職場にいる時間に集中している。休暇は、企業や契約に応じて異なる。

Q:年間財政規模は。

A:会社の寄付 200万€で減少傾向(50%程度か?)。他に会費収入がある。施設修繕費が必要な場合は会社に申請する。

(記録:南波、末廣)



車でドルマーゲン駅まで送っていただき、ケルン中央駅へ。ケルンの街中を、最後の散策やショッピング、協会めぐりなど、思い思いに楽しむ。

18時30分から、日本食店のMOMOTARO(オーナーは所沢出身)で、ベッカーさんを囲んでお別れパーティを行う。ベッカーさんに、ずっとお聞きしたかったことを聞いてみた。

「ベッカーさんがスポーツに関わる中で大切にしていることは何ですか。」

- ・規約と目標設定
- ・魅力あるプログラム
- ・社会の変化に対するスポーツの意義を踏まえたビジョン

21時、名残惜しみながら会を閉じてケルン駅からグレーベンプロイヒ駅、そしてホテルへ。各自、スーツケースと格闘し、23Kgにどうかおさめる。明日は帰国の日、時間が経つのはなんて早いのだろう!



3月22日(金)

ホテルフロント集合

- 9:34 電車移動 グレーベンプロイヒ駅～ケルン中央駅～デュッセルドルフ駅
 - 10:27 デュッセルドルフ国際空港 着 搭乗手続き(23kg クリア！)
 - 13:30 デュッセルドルフ国際空港 発 スカンジナビア航空 SK626 便
 - 14:50 コペンハーゲン国際空港 着
 - 15:45 コペンハーゲン国際空港 発 スカンジナビア航空 SK983 便
- 機内泊

3月23日(土)

- 10:40 成田空港着
- 解散

帰国の朝。お見送りに来てくださったアクセル・ベッカーさんから私たち一人ひとりに、「RITTER SPORT(リッタースポーツ)」のチョコレートがプレゼントされた。「RITTER は騎士。みなさんにピッタリのチョコレートを贈ります。」ドイツの騎士ベッカーさんからの粋な贈り物だった。

9時34分発、予定通りの電車に乗り、ケルン中央駅で乗り換えてデュッセルドルフ駅へ。ロストバゲージの手続きをするために、茨田さんたちはあちこち駆け回るが、らちが明かずに搭乗することに。コペンハーゲン国際空港で、往路と同様に早歩きでトランジット。荷物検査が無かったのが楽だった。

翌朝、ほぼ予定時刻に成田空港に到着。この日はとても冷え込んでおり、小雨も降っていた。「ドイツより寒～い！」思い返してみると、ドイツの気候はとても過ごしやすかったことに気付く。

全員無事に帰国できたことに感謝して、解散した。

(後日、無事にロストバゲージの保険がおりたことで一件落着！)

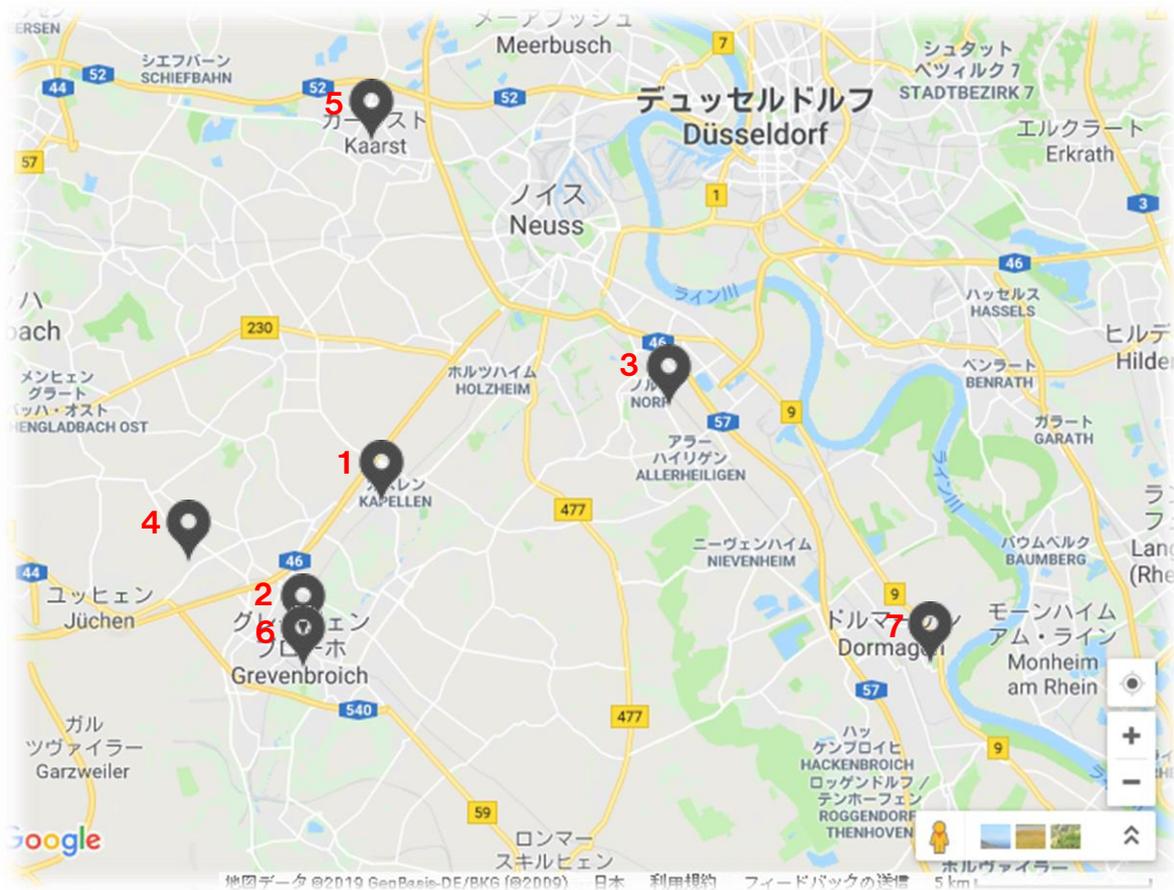


ホテルゾンダーフェルトの朝食も食べおさめ



(記録とりまとめ、全体編集: 斎藤)

<視察クラブMAP>



- 1 TV Jahn 06 Kapellen ヤーン・カペレン 06 体操クラブ<グレーベンブロイヒ市>
- 2 Turnverein Orken 1896 e.V. オルケン体操クラブ<グレーベンブロイヒ市>
- 3 Neusser Schwimmverein 1900 e.V. ノイス水泳クラブ<ノイス市>
- 4 SW Rot-Weiß Gierath ロートヴァイス・ギーラートクラブ<ユッヘン市>
- 5 SG Kaarst 1912/35 e.V. S Gカールストスポーツクラブ<ノイス市>
- 6 TUS Grevenbroich T U Sグレーベンブロイヒ体操クラブ<グレーベンブロイヒ市>
- 7 TSV Bayer Dormagen T S Vバイヤー・ドルマーゲン体操クラブ<ドルマーゲン市>

SSC大泉主催
ドイツ研修2019報告書
2019年6月発行



**rhein
kreis
neuss**

